

建築は、アートだ。

『エンジニア』としての知識と技術。『アーティスト』としてのセンスと感性。
二本の柱があつてこそ、初めて優れた建築が完成するのだと私たちは考えます。

建築家としての知識や技術は、大学で学べます。
では、センスや感性は？

それは生まれつきのもの、あるいは両親からの継承、
これまで育ってきた環境によるものだと思いますか？
センスも、感性も、努力によって身につけられます。

工学を頭に。アートを胸に。

多摩美で建築を学ぶ理由。

あなた次第で磨き、鍛え、自分のチカラにすることが出来るものです。

そのために工学とアートを融合させた教育を、

私たち多摩美術大学 建築・環境デザイン学科は長い時間をかけて考えてきました。

美のない建築では、人の心を打つことはないでしょう。

たとえ風雨や災害に耐えても、後世に長く残ることはありません。

素晴らしい建築家になるためには、工学を頭に。アートを胸に。

多摩美術大学で建築を学んでみませんか。

建築は、工学だ。

Art and Engineering

Tama Art University
Department of Architecture and Environmental Design



www2.tamabi.ac.jp/kankyou/



建築デザイナー
武松 幸治

1986年 多摩美術大学卒業
E.P.A環境変換装置建築研究所
http://epa-arch.com
一級建築士事務所主催

エンジニアとして アートを生み出す。

多摩美で幅広いアートの要素と、工学的基礎を学びました。建築は、美しさと安全性を両立することが不可欠です。私たちが提案するのは建築デザインですが、構造設計者と同じエンジニアの立場から考える必要もあります。アートと工学を橋渡しする能力が大きな強みになるのです。

日本建築学会賞を受賞した「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」は、チューブ状の幕の屋根を空気圧で膨らませ、木製のフレームで支えています。フレームの形状は、美しさと強度の両観点からスケッチを重ねて導き出しました。美しい建築を残す試行錯誤を形にできたと感じています。

与えられた時間はみんな同じです。その中で、自分の感性を磨く時間をどれだけ見つけられるか。多摩美には、建築に限らずさまざまなものづくりに取り組む仲間がいます。彼らと同じ時を過ごし、多くのものを目にする中で、感性は後天的に磨くことができるのです。



パラアスリートのためのトレーニングセンター「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」

建築家を育てるための工学とアートを融合した 多摩美術大学 建築・環境デザイン学科の独自カリキュラム

建築を学ぶと言っても、在学中に実際の建築物を建てられるわけではありません。机上の空論だけでは現実の素材や空間と相対したときに大きなギャップがあります。本学の授業では、設計や構造計算はもちろんですが、実際に原寸の素材に触れ、手を動かすことで、頭と身体でリアルに建築を学ぶことができます。実用性や社会的責任だけではなく、人々の心に訴える体験や感動をデザインによって生み出すことで『工学とアートを横断する』幅広い視野を持った建築家を育てることをめざしています。



手書きの設計からCAD・CGからVR表現につなげる。



竹を素材に原寸大の空間を作り上げ、「重力」を視覚化。



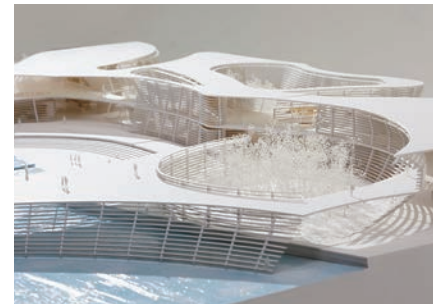
釘を一本も使わず骨組みを制作する伝統的工法を修得。



インスタレーションを通して、諸現象の操り方を学ぶ。



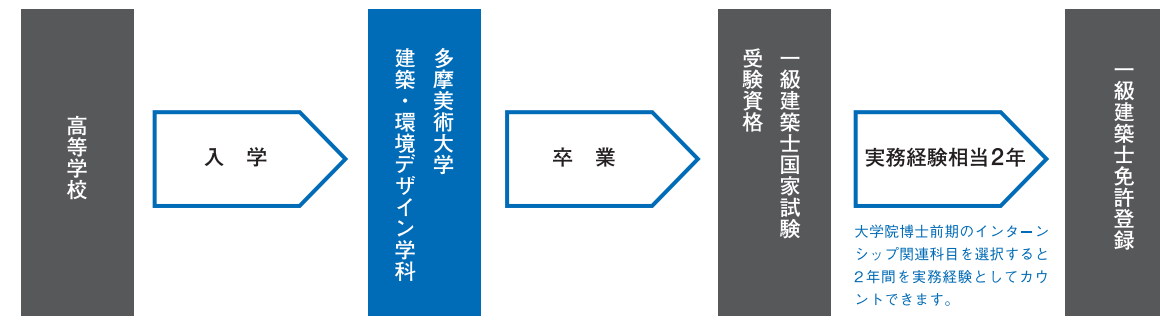
建築物の構造を感覚で理解し、数学を用いて説明する。



4年間の学びの集大成を「卒業制作」の作品に込める。

一級建築士になるには？

指定科目を修めて大学を卒業すると、一級建築士試験の受験資格を得られます。試験は学科試験と設計製図試験があり、両方に合格する必要があります。合格し、2年以上の実務経験相当を積むと免許登録ができ、「一級建築士」になります。実務経験は、試験合格前の期間から通算することも可能です。



青木 美羽

多摩美術大学
建築・環境デザイン学科
鷗友学園女子高等学校卒



理系の頭でデザインに 説得力を持たせる。

建築デザインを学べる理系の学科を探していました。祖母の家を建て替えたとき、住む人のための細やかな配慮がされた住宅を建てたいと思ったのです。当初、美大受験は考えていませんでしたが、入試直前にセンター試験のみの方式があると知り、美術予備校に通うことなく受験しました。

初めは、遠近法もわからず、うまく描けませんでした。しかし、1年次のデッサントレーニングの授業を受け、毎日デッサンを続けることで、最後の課題ではグランプリに選ばれました。多摩美には受験専用の絵のトレーニングを積んでいなくても力を伸ばせる環境があります。

高校で理系の勉強をしてきたことは、デザインに説得力を持たすことに活かされています。自分の作品を発表する際、周りの人に「説明が分かりやすい」と言ってもらえることが多く、これまで培ってきた論理的思考に、美大で育んだ感性が融合して、相乗効果が生まれていると感じます。



多摩美に新設された学生寮「オーリーブ館」のインテリアコンペを勝ち抜いた作品